



# 井上道義の 未来だった今より

人の才能、というのはいったい何なんだろう？ 数年前、指揮者コンクールの審査をした後、妻に写真付きの応募者の資料を見せ、「どいつが通ったか当ててごらんよ」と言ったら、何と10人中8人まで当てて驚いた。O E Kの新楽員オーディションをした時も似た経験をした。舞台の真ん中まで歩いてくる姿で音楽や才能の予測がつく、とコンサートマスターが言うのだ。格好が良いとか、確信に満ちているとかとは違う。オーラとも少し違う。何か存在の自然さと、その人が自己の未来を賭ける時の危うさをもう一人のその人が試みる客観化が見せる力だろう。

先日ある若いバイオリニストが、観客をねじ伏せようという嫌みな演奏から脱皮し、音楽の核心に迫る演奏を奏で始めた。1年間、演奏から遠ざかる時期を作った後だそうだ。自分を真に育てるのはもう一人の自分だと気づく

## 「才能」

ことが本当の「才能ある人」と思う。翻って井上自身で言えば34歳の頃、結婚もし、仕事カレンダーも埋まっている……でも何だか自分には足りないものだらけな気がして、ふと気がついた。音楽はやっているが小さなジャンルでもがいているだけ。このまま60、70歳になったら自分に飽き、人にも飽きられ、自殺するしかなくなると感じた。1年仕事を休みそれまでやっていなかったオペラの勉強を始めた。あの時は人生に対して才があったと思う。

その後世界は広がり、他人でない自分が発見でき、自分の住む場所は音楽だけでなく、人と深く関わる、時が過ぎゆく「舞台上」なのだと思った。そして、そのまんま進み30年。今、また考え直している。力いっぱい自分を生きることに才能ある人間になりたい。

(オーケストラ・アンサンブル金沢 音楽監督)

# 始まります。新石川版

——連載も次々 パワーアップ

**4** 月から石川版が変わります。コラムなどの新連載が相次いで始まるほか、読者の要望の強いおくやみ欄を充実させます。ご期待ください。

**火** 曜日には、石川を中心とした北陸の旬を写真で伝える企画「瞬 北陸2012」がスタート。オーケストラ・アンサンブル金沢音楽監督の井上道義さんのコラム「未来だった今より」が水曜日から移ります。

**水** 曜日には、北陸の魅力を発見する小さな旅「まちぶら」が火曜日から移ります。ぶらっと足を延ばせる関西の旅も取り上げます。

**木** 曜日は、北陸の「経済」と「くらし」を週替わりで。経済では、「百年企業@北陸」が終了し、ユニークな企業を紹介する

堀口英則さん



## 北陸の「旬」写真で 就活に役立つコラム

どん取り上げる楽しいコーナーです。また、「石川三壇」が水曜日から移ります。

**土** 曜日は北陸文化。週替わりエッセー「北陸六味」の筆者陣に、新たに金沢21世紀美術館の秋元雄史館長に加わっていただきます。「ミュージアムの風」は終了し、記者が展覧会や博物館などを訪ねる企画「ふらり探訪」を設けます。

**日** 曜日の特集「いしかわフォーカス」は引き続き掲載します。地域の政治・経済の課題から軟らかい街ダネまで、県内の記者が関心のあるテーマに切り込みます。

**月** 曜日の大型インタビュー「この人に聞く」も継続します。今、話を聞きたい人物に向き合い、じっくりと本音に迫



秋元雄史さん

## いしかわスクエア